

学生と地域との共同による 地域調査の実施／地域振興策の提案

● 研究の特徴・独自性

地理学の視点に基づく学生による地域調査の実施／地域振興策の提案

- 山梨大学教育学部生活社会教育コースで地理学を専攻する学生が、県内各地の地域実態や地域課題を調査し、それに基づいて、観光・地域活性化策を提案します。
- 私は富士吉田市出身で、2025年4月に山梨大学教育学部に着任しました。観光地理学を専門とし、その知見を活かし、過去に勤務していた大学において地域と連携したゼミ活動や地域調査活動を展開してきました。
 - 栃木県宇都宮市、長野県白馬村・諏訪市、新潟県糸魚川市での地理学のフィールドワークの実施（図1）
 - 平地林を活用した野外音楽イベントの開催による地域活性化（栃木県壬生町）（図2）
⇒大学コンソーシアムとちぎ主催「第19回学生&企業研究発表会 地域社会貢献・人材育成分野A」金賞受賞
 - 地域の名産・特産発信を目的としたクラフトビールの企画開発（栃木県のブルワリーと連携）
⇒「#宮っこのひみつエール」として苦味の少ないレモン味の小瓶ビールを販売。
- 近年の中等教育においては、社会科学系の教科において、生徒が主体的に身の回りの社会の課題を発見し、情報を収集・整理・分析し、解決策や新たな知見をまとめ、表現する学びが求められています。教員養成において、地域と連携した調査活動を経験することで、学生の教科教育力、地域調査スキルを向上させたいと考えています。



図1 地理学野外実習における学生と市役所との意見交換



図2 平地林での野外音楽イベントの開催

● 社会実装・応用例

● 産業界へのアピール

- 地理学を基盤とする地域調査に基づく地域実態・地域課題に関する基礎的なデータ・知見の提供。
- 学生らしいアイデアによる観光・地域活性化策の提案。
⇒行政（宇都宮市役所）での勤務経験を活かし、単なる学生の思いつきではなく、地域の要望や実態に合わせた現実的なアイデアを提案します。

● 応用・活用例

- 地域の自然、地理、歴史、産業・経済、文化などの現状分析・記録（文章化・地図化・グラフ化）、課題の抽出
⇒自治体が発刊するいわゆる自治体史、地区や自治会・地域組合などで編纂する活動記録資料などへの活用
- 地域の実態調査に基づく観光振興・地域活性化策の提案。
- 地理学における地域調査の手法と学生のアイデアを活かすことで、様々な活動の方向性が考えられます。

研究キーワード：地理学、観光、地域振興、地域調査、フィールドワーク、地理教育



大学院 総合研究部 教育学域
教育学系
准教授

渡邊 瑛季



山梨大学
研究者総覧

論文：渡邊瑛季 2022. 企業との商品共同開発によるゼミ活動の効果と課題—クラフトビールの開発実践から—, 宇都宮共和大学都市経済研究センター年報 22: 79-107.
渡邊瑛季 2020. 宿泊施設・合宿団体・旅行会社間の関係からみたスポーツ合宿地の存続形態—山梨県山中湖村平野地区を事例に—, 地学雑誌 129: 635-655.